



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第8号
(7月22日～8月5日)

令和3年7月21日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

成らせすぎ目立つ！
良品生産に向け、見直し摘果の徹底を!!
かん水等、乾燥対策は万全に!!!

I 概要

7月21日時点の果実肥大は、概ね平年並から平年を上回っている。

仕上げ摘果を終えていない園地では、作業を急ぐ。仕上げ摘果を終了した園地では、成らせすぎや摘果の見落としが見られるので、いま一度園地を見回り、発育の悪い果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果を主体に見直し摘果を徹底する。

降水量の少ない状況が続き、園地が乾燥している。苗木や若木は乾燥の影響を受け易いのでかん水する。

「7月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月30日～7月31日頃に行う。散布むらが生じないように基準散布量を守り、散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、着果状況、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

各品種とも7月21日時点の果実肥大は、概ね平年並から平年を上回っている。

○果実肥大 (7月21日現在、横径cm、平年比%)

地域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	6.8	—	6.0
	前年	6.4	—	5.5
	前年	7.1	—	5.8
	平年比	106	—	109
青森市浪岡 (東青地域県民局)	本年	6.6	—	5.6
	前年	6.2	—	5.2
	前年	6.6	—	5.5
	平年比	106	—	108
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	7.0	6.2	5.5
	前年	6.5	6.1	5.4
	前年	6.9	6.3	5.5
	平年比	108	102	102
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本年	6.3	6.1	5.7
	前年	6.4	6.4	5.4
	前年	6.8	6.3	5.5
	平年比	98	95	106
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	7.3	6.4	5.6
	前年	6.3	5.9	5.3
	前年	6.4	5.8	5.1
	平年比	116	108	106

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 着果状況

7月13、14日に県が行った着果状況調査の結果では、園地によってバラツキがあるものの、いずれの品種も標準着果率を上回っている。

○着果状況 (県全体) (単位：%)

品種	着果率			標準着果率
	本年	平年	前年	
ふじ	33.4	31.0	37.0	25.0
ジョナゴールド	34.9	32.5	38.6	28.6
つがる	37.6	35.6	42.0	28.6
王林	36.5	34.7	41.0	25.0
トキ (参考)	32.9	—	38.0	25.0

注) 県内72地点 (ジョナゴールド、つがる71地点、トキ66地点) で調査

着果率：100頂芽当たりの着果数の割合 (%)

標準着果率：県が基準とする適正な着果程度

平年値：平成3年～令和2年までの30か年の平均

(3) 作業の進み (7月19日現在)

ふじの仕上げ摘果は終盤を迎えており、仕上げ摘果が終了した園地では見直し摘果が行われている。

徒長枝整理や支柱入れが行われている。

(4) 病害虫の動き

(7月20日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	感染継続中 無防除の県予察圃での新梢葉の発病葉率 (スターキング) (本年: 黒石 7月20日 2.5%、平年: 黒石 7月20日 6.5%)
褐斑病	感染継続中
腐らん病	粗皮感染継続中
黒星病	分生子による2次感染継続中 無防除の県予察圃での新梢葉発病葉率 (ふじ) (本年: 黒石 7月5日 41.7%、平年: 黒石 7月5日 40.9%)
モモシクイガ 及びナシヒメシクイ	成虫の羽化及び産卵継続中
リンゴハダニ 及びナミハダニ	卵～成虫が混在。幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモン ハマキ	幼虫主体
キンモンホソガ	第2世代幼虫～蛹主体 (第2世代成虫50%羽化日 平年: 黒石 7月28日)
クワコナカイガラ ムシ	まもなく第1世代ふ化幼虫の移動始まる

2 作業の重点

(1) 摘果

仕上げ摘果を終えていない園地では、作業を急ぐ。仕上げ摘果を終了した園地では、成らせすぎや摘果の見落としが見られるので、いま一度園地を見回り、発育の悪い果実や形の悪い果実、病害虫被害果、さび果を主体に見直し摘果を徹底する。

(2) 乾燥対策

降水量の少ない状況が続き、園地が乾燥している。苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日 (降水量 5mm未満) が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(3) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

樹冠内部に十分日光を入れ、薬液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので支柱入れや枝吊りを行う。

日焼けの発生防止のため、高温が続くと予想される場合は、徒長枝の整理や支柱入れ等の作業は控える。

(4) 「7月末」の薬剤散布

「7月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月30日～7月31日頃に行う。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

無袋栽培では毎回、シンクイムシ類防除剤を使用する。

「7月末」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	7月30日～ 7月31日頃	オキシラン水和剤	500倍
弘前		又は有機銅剤	
三戸		〔キノンドー顆粒水和剤	1,000倍〕
		オキシンドー水和剤80	1,200倍〕
		又はアリエッティC水和剤	800倍
		又はダイパワー水和剤	1,000倍
		又はベフラン液剤25	1,500倍

アブラムシ類の発生の多い園地では、発生に応じて、ウララDF4,000倍、キラップフロアブル4,000倍、トランスフォームフロアブル4,000倍、コルト顆粒水和剤6,000倍、バリアード顆粒水和剤4,000倍、ダントツ水溶剤4,000倍、モスピラン顆粒水溶剤4,000倍のいずれかを散布する。

炭疽病の発生の多い園地では、オキシラン水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

輪紋病のいぼ皮病斑が多発している園地では、枝における新たな感染を抑制するため、オキシラン水和剤、有機銅剤、ダイパワー水和剤、ベフラン液剤25のいずれかを選択する。

褐斑病の多発が懸念される場合は、有機銅剤、ダイパワー水和剤のいずれかを選択する。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(5) 黒星病対策

気温が高くなると黒星病の発生は一時的に停滞するが、今後の感染源を減らすため、被害葉・果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(6) 腐らん病対策

本年は、腐らん病の発生が目立っている。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、再発病斑を含め見つけ次第、泥巻き法か削り取り法のいずれかの処置を行う。

粗皮感染による胴腐らんの発生が多い園地では、「7月半ば」又は「7月末」のいずれかにトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(7) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。

ポリオキシシンAL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(8) 炭疽病対策

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(9) 褐斑病対策

前年に発生が多かった園地では、「7月半ば」又は「7月末」のいずれかにトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(10) ハダニ類対策

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルはリンゴハダニだけの適用、マイトコーネフロアブルはナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	○
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○

○：適用する、×：適用しない

(11) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(12) クワコナカイガラムシ対策

バンド巻きはただちに除去する。

発生が多い園地では、アプロードフロアブル以外の防除剤による胴木洗いを行う。平年の防除時期は、7月下旬（末頃）と8月上旬（前回散布の10日後頃）である。

(13) マメコバチの巣箱の回収

マメコバチの巣箱をまだ回収していない場合は、速やかに回収し、適切に保管する。

(14) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいので、カルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

3 一般作業

- (1) 草刈り
- (2) 高接ぎ樹の管理（高接枝には添え木して風害防止）
- (3) 極早生品種の着色手入れ、収穫

4 今後の作業予定（8月6日～8月27日）

- (1) 見直し摘果
- (2) 薬剤散布
- (3) 落果防止対策
- (4) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り
- (5) 草刈り
- (6) 腐らん病対策
- (7) クワコナカイガラムシ対策
- (8) ビターピット防止対策
- (9) 苦土欠乏対策
- (10) 風害防止対策

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

○（独）農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/nouyaku/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。

なお、暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は令和3年産までで廃止されることになっています。令和4年産からは病虫害も対象となる「総合方式」または、「農業経営収入保険」への切り替えが必要です。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象となる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

また、収入保険の加入申し込みは随時受け付けていますが、今年から、農林水産省の共通申請サービスを利用することにより、自宅のパソコンなどからオンラインで申請できるようになりました。事務費の割引もありますので、これを機に加入を御検討ください。

※詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 農作業安全を心がけましょう 》

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

次回の発行は令和3年8月5日（木）の予定です。

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudalboushi.html>

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5093、5094
017-734-9492直通